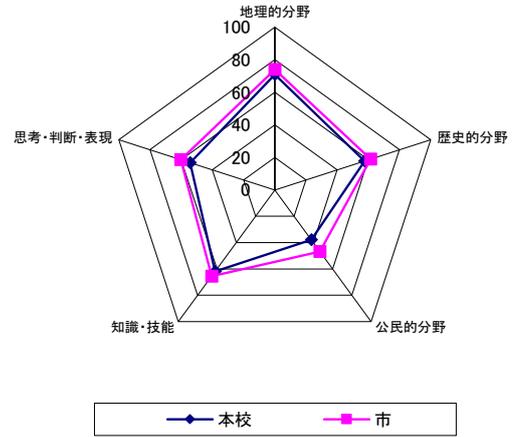


宇都宮市立陽南中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	70.9	74.0	67.9
	歴史的分野	57.6	61.5	56.1
	公民的分野	37.9	46.9	40.7
観点別	知識・技能	61.9	65.5	60.6
	思考・判断・表現	54.3	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○日本の気候や発電についての問題では、正答率が市の平均をわずかに上回っている。</p> <p>○九州、中国・四国地方の農業と工業の特色を問う選択式の問題では、正答率が市の平均を1ポイント程度上回っている。</p> <p>●近畿地方の文化や歴史の特色について複数の資料に着目して考察する問題では、正答率が市の平均より4.5ポイント低い。</p> <p>●四国地方の伝統産業について複数の資料に着目して考察する問題では、正答率が市の平均より5.8ポイント低い。</p>	<p>・資料を読み取る力を身に付けるために、ひとつひとつの資料から分かることを記述する時間や複数の資料を比較したり関連付けたりする時間を多く設定する。</p> <p>・初見の資料でも活用できる力を身に付けるために、授業では扱わなかった資料を定期テストで出題するなど、評価の仕方を工夫していく。</p>
歴史的分野	<p>○江戸時代の大名行列についての資料を読み取る問題では、正答率が市の平均を0.5ポイント上回った。</p> <p>●大問4「古代までの日本」、大問5「近世の日本」についての問題すべてで、正答率が市の平均を大きく下回っている。</p> <p>●特に、時代区分についての問題では、正答率が市の平均より7.8ポイント低い。</p>	<p>・年代や時代区分の表し方が理解できるよう、基本的なことから丁寧に指導にあたる。</p> <p>・歴史分野における基礎的・基本的内容の定着を目指し、生徒の興味関心を高められるよう、教材研究を行い、授業を改善していく。</p> <p>・個別最適な学びに向けて、生徒ひとりひとりの学習状況を把握し、支援を充実させる。</p>
公民的分野	<p>○社会権の種類についての問題では、正答率が市の平均を1.7ポイント上回った。</p> <p>●日本国憲法が国の最高法規であると理解している生徒の割合が23.9%と、市の平均より13.5ポイント低い。</p> <p>●新しい人権が誕生した背景について考察し、記述する問題では、正答率が市の平均より16.5ポイント低い。</p>	<p>・日本国憲法についての知識を身に付けることは、生徒の人権感覚を育成する上でも重要であるため、生活と結びつく資料を提示し、生徒の興味関心を高めていく。</p> <p>・記述する力を高められるよう、自分の考えを自分の言葉で表現する学習活動を多く取り入れていく。</p>